

修学院小学校運営協議会だより

第34号 学校運営協議会理事長 青木 克之 修学院小学校長 鎌田 賢二
令和8年10月5日発行



朝夕の涼しさに秋の深まりを感じる頃となりました。地域・保護者の皆様にはますますご健勝のこととお喜び申し上げます。平素より修学院小学校の教育活動にご理解とご支援を賜り、誠にありがとうございます。子どもたちは元気いっぱいに二学期のスタートを切りました。

これからは運動会や学習発表会など、子どもたちが力を発揮する場面が続きます。一人ひとりの成長を、地域の皆様とともに見守り、支えていただいていることを、教職員一同大変ありがたく感じております。

本年 6 月 8 日(月)には学校運営協議会を開催し、地域の皆様と教職員が一体となって、修学院小学校のよりよい教育環境づくりについて意見を交わしました。

また、7 月 24 日(金)には学校運営協議会委員の皆様にご協力いただき、まなびの池とその周辺の清掃を行っていただきました。子どもたちが安心して過ごせる環境づくりにご尽力いただき、心より感謝申し上げます。

学校安全環境委員会

本校では、児童の安全を守るため、日々の教育活動と連携しながら計画的に安全対策を進めています。6 月 8 日(月)には、学校運営協議会総会に先立ち、学校安全環境委員会を開催しました。委員の皆様とともに、校内の安全点検や安全教育の充実、地域における安全確保の取組について話し合い、今後の方針を確認しました。地域の皆様との連携を深めながら、児童が安心して学べる環境づくりを進めてまいります。

また、本年度も交通安全に関する取組を進めています。4 月 21 日(火)には 1 年生を対象とした歩き方教室、5 月 20 日(水)には 4 年生を対象とした自転車教室を実施し、学校安全環境委員会委員の皆様や関係機関の方々にご協力いただきました。児童は、道路の安全な歩行や自転車の正しい乗り方について学び、安全への意識を高めることができました。

さらに、11 月 12 日(木)には不審者侵入対応訓練を予定しています。児童が緊急時に落ち着いて行動できるよう指導するとともに、教職員も左京警察署の方をお招きして実践的な研修を行い、安全対策の充実に努めてまいります。

学び支援委員会

学び支援委員会では、日々の学習活動を支援し、子どもたちの学びをサポートしています。

今年度も、伝統文化を学ぶ機会として、6 年生を対象とした茶道教室の実施に向けて準備を進めています。茶道の礼儀作法やおもてなしの精神に触れることで、日本の伝統文化を尊重する心や郷土を愛する態度を育んでいきたいと考えています。

また、今年度からは修小コーチングスタッフ(学校教育支援ボランティア)の皆様にも、さまざまな形で学校教育に参画していただいています。これまでに家庭科の学習において、玉どめや玉むすびの技能習得を支援していただくなど、子どもたち一人ひとりに寄り添った学習支援を行っていただきました。地域の皆様の温かいご協力により、児童が安心して学び、意欲的に活動できる学習環境が広がっています。

開かれた学校委員会

開かれた学校委員会では、年2回実施の『子ども育みアンケート』の評価項目の検討・結果の分析を行っています。保護者・地域への情報発信として、学校運営協議会だよりや校長室だより「こころ」等を発行しています。これからも、よりよい学校教育に向けてサポートを続けていきます。

開かれた学校委員会 コミュニケーションシート(子ども育みアンケート)より

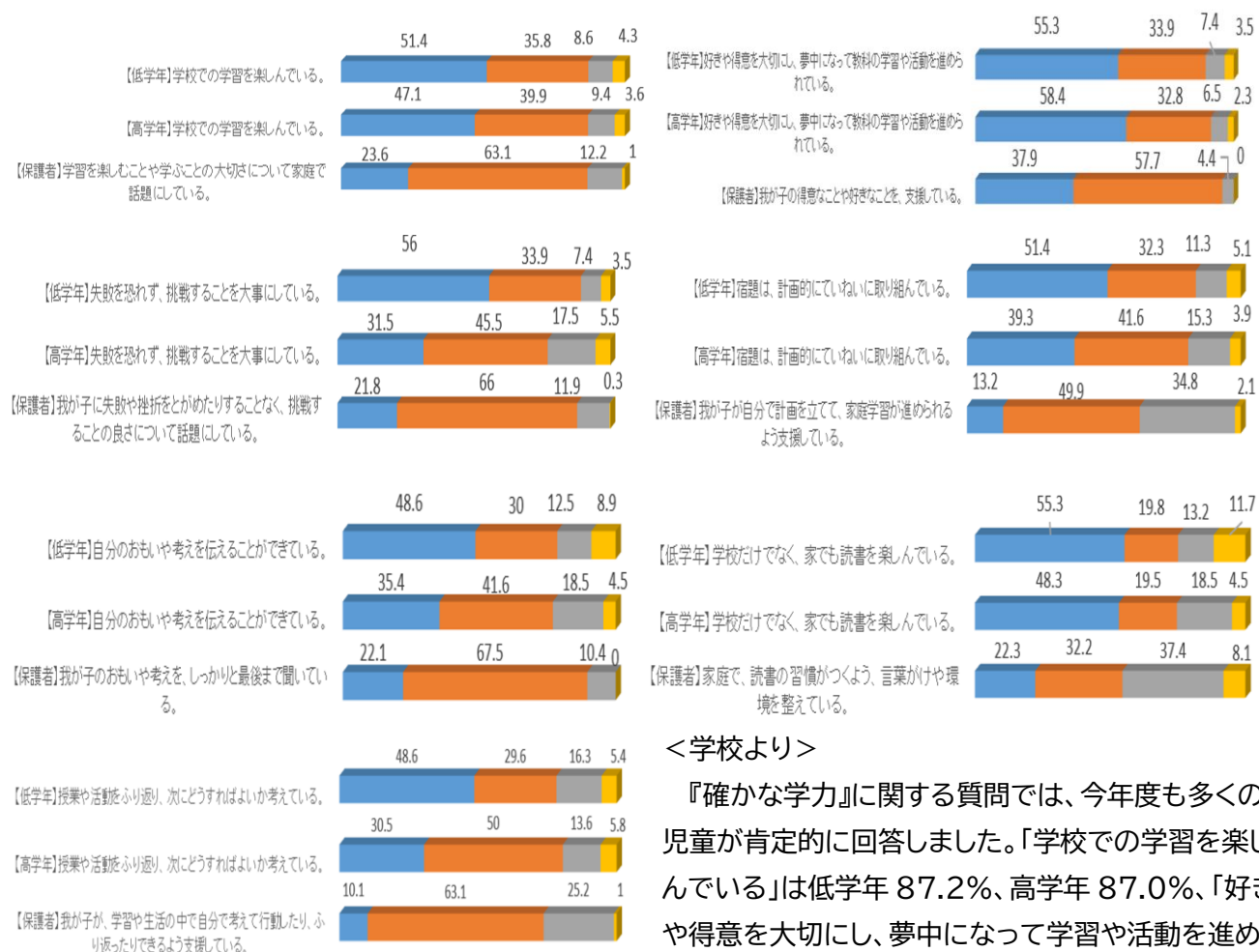
本校では、児童・保護者・教職員による自己評価を通して、学校生活・家庭生活を振り返る「子ども育みアンケート」を年2回実施しています。

第1回の結果を分析し、現状の把握と今後の教育活動に活かしてまいります。また、「開かれた学校委員会」の委員の皆様からいただいたご意見も併せて紹介いたします。

アンケート項目は「確かな学力」「豊かな心」「健やかな心と体」の3つの視点から構成されており、それぞれの結果と考察をお知らせいたします。お忙しい中、ご協力いただきありがとうございました。

確かな学力

■よくできている ■だいたいできている ■あまりできていない ■できていない



<学校より>

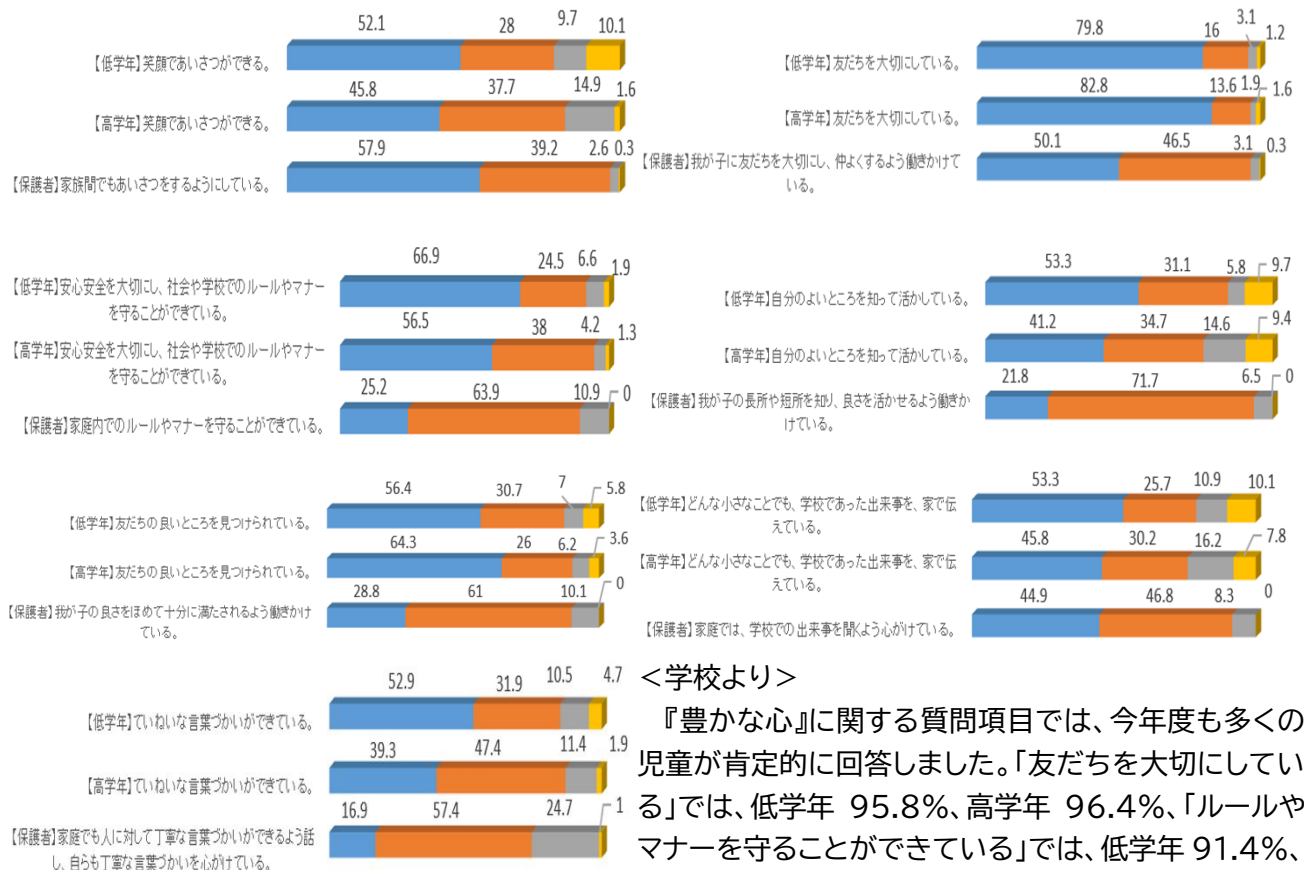
『確かな学力』に関する質問では、今年度も多くの児童が肯定的に回答しました。「学校での学習を楽しんでいる」は低学年 87.2%、高学年 87.0%、「好きや得意を大切に、夢中になって学習や活動を進め

られている」は低学年 89.2%、高学年 91.2%と高い割合を示しており、子どもたちが前向きに学習へ取り組んでいる様子がうかがえます。一方で、学習を十分に楽しめていないと感じている児童も一定数おり、その声を真摯に受け止め、誰もが意欲をもって学べる学校づくりに努めてまいります。

保護者の「学習を楽しむことや学ぶことの大切さについて家庭で話題にしている」は 86.7%と高く、家庭での支えが子どもたちの学びにつながっていることが分かります。また、「よくできている」よりも「だいたいできている」を選択された割合が比較的多く見られ、子どもの成長を見守りながら、今後の伸びに期待して評価していただいている様子もうかがえます。一方、「家でも読書を楽しんでいる」や「宿題は計画的にいていねいに取り組んでいる」では、高学年になるにつれて肯定的な回答がやや低くなる傾向が見られました。学年が上がる中で、家庭学習や読書習慣の継続が課題となっています。また、「授業や活動をふり振り返り、次はどうすればよいか考えている」では、低学年 78.2%、高学年 80.5%が肯定的に回答していました。今後も、読書活動や家庭学習の充実を図り、自ら学ぶ力を育てていきます。

豊かな心

■よくできている ■だいたいできている ■あまりできていない ■できていない



<学校より>

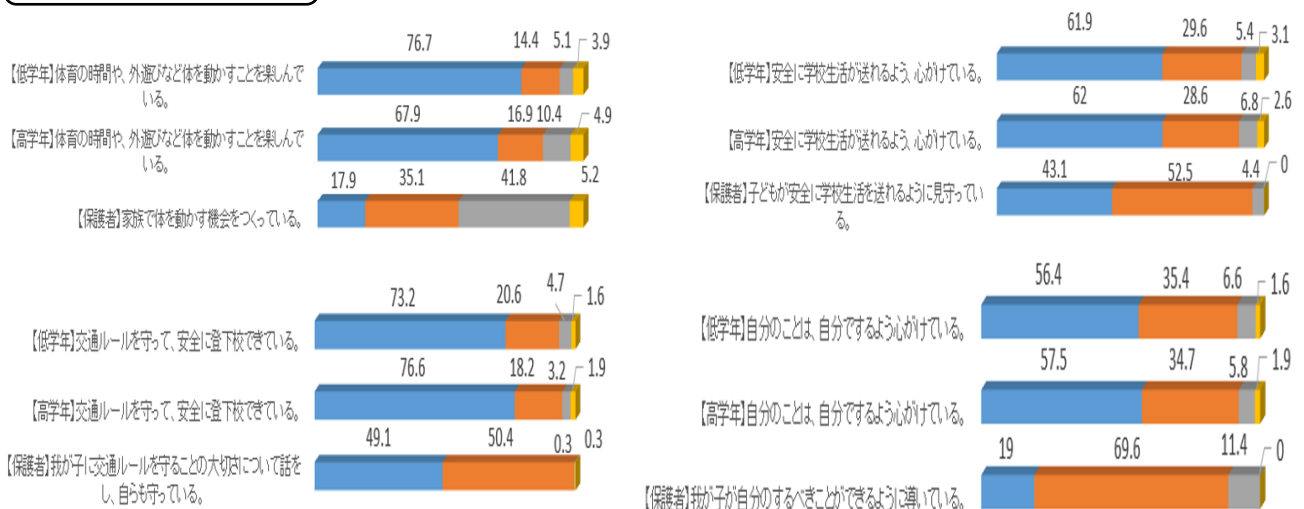
『豊かな心』に関する質問項目では、今年度も多くの児童が肯定的に回答しました。「友だちを大切にしている」では、低学年 95.8%、高学年 96.4%、「ルールやマナーを守ることができる」では、低学年 91.4%、高学年 94.5%と高い割合となりました。また、「友だちの良いところを見つけられている」でも、低学年 87.1%、高学年 90.3%と高い結果が見られ、互いを認め合いながら学校生活を送る姿がうかがえます。保護者アンケートでは、「家庭でもあいさつをするようにしている」において、「よくできている」と回答した割合が高く、家庭での温かな関わりが子どもたちの豊かな心を育てていることがうかがえます。

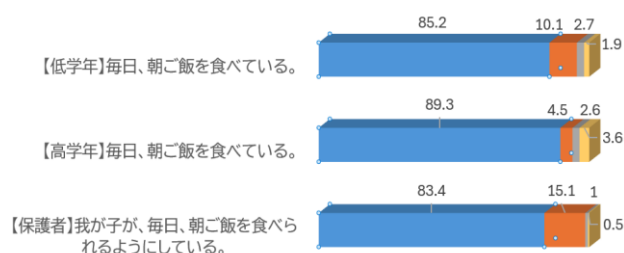
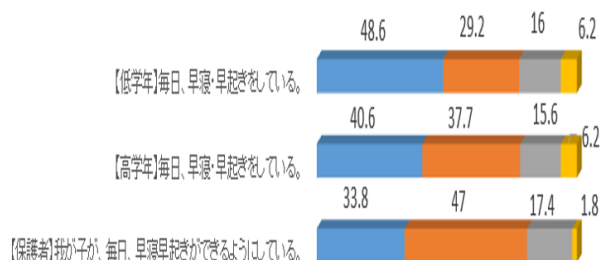
一方、「自分のよいところを知って活かしている」では、低学年 84.4%に対して高学年 75.9%となっており、自分の良さや可能性を実感することに難しさを感じている児童も見られます。自由記述では、言葉づかいの大切さについての意見も寄せられました。

今後も、道徳科や学級活動を通して思いやりや相手を尊重する心を育むとともに、一人一人の良さや成長を認め、安心して過ごせる学校づくりを進めてまいります。

健やかな心と体

■よくできている ■だいたいできている ■あまりできていない ■できていない





<学校より>

『健やかな心と体』に関する質問項目では、今年度も概ね肯定的な回答が得られました。「交通ルールを守って、安全に登下校できている」では、低学年 93.8%、高学年 94.8%、「毎日、朝ご飯を食べている」では、低学年 95.3%、高学年 93.8%の児童が肯定的に回答しており、安全意識や基本的な生活習慣がおおむね定着していることがうかがえます。また、「体育の時間や外遊びなど体を動かすことを楽しんでいる」でも、多くの児童が肯定的に回答していました。一方で、「毎日、早寝・早起きをしている」は低学年 77.8%、高学年 78.3%となっており、塾や習い事などにより就寝時刻が遅くなる実態もうかがえました。学校では、「すこやか週間」や保健指導を通して、望ましい生活習慣づくりを継続して進めてまいります。

また、自由記述では、外国籍の児童も含め、多様な仲間とともに学び育つ学校のよさを評価する声が寄せられました。本校では、多様な文化や考え方を認め合い、誰もが安心して過ごせる学校づくりを大切にしています。その一方で、言葉遣いについて心配するご意見も寄せられました。言葉は相手の心に大きな影響を与えるものであり、学校としても大切な課題と受け止めています。今後も、道徳や学級活動等を通して言葉の重みや相手を思いやる心について指導し、一人一人が安心して過ごせる学校づくりに努めてまいります。

修学院散歩 きらら坂

雲母坂は都から比叡山へ向かう狭く急な主要ルートで、名の由来は雲が湧き出るような景色とされる。延暦寺への勅使や修行僧が往来し、勅使坂や阿闍梨道とも呼ばれた。

周辺は雲母坂城跡など戦場にもなった歴史ある道で、登り口には雲母寺跡石碑や浄刹結界址の石柱が残る。かつては一乗寺下がり松付近に登り口があった。

(小池寛)



「子ども育みアンケートの結果と分析」への提言 －開かれた学校委員会での討議を中心に－

「開かれた学校委員会」では、アンケート項目が時勢の推移に合っているかの検討を行ったうえで、年に2回アンケートを実施しています。委員会では、集約された結果を地域の方々をはじめ、学校関係者や学識経験者、教育関係者、PTAの方々にお集まりいただき、分析・討議を行っています。さて、各項目の集計結果については学校の詳細な分析に委ねますが、各家庭における自主的な学習や読書の達成率が60%であることは、保護者が読書をする姿とともに、タブレット端末の普及が大きな影響を及ぼしていると考えています。一方、反抗期における言葉遣いやチーム担任制の導入、学校貸与のタブレットの活用に関する課題については、保護者のみなさまのご意見をさらに集約する必要があると感じております。なお、教職員に対する教科指導や学校生活における諸指導については、多くの謝辞が寄せられています。また、外国籍の児童との接点は、グローバルな視野を広げるうえで非常に重要であることを確認いたしました。

【文責：小池】